

岡崎市森林整備ビジョン（概要版）

～ めぐみ・うるおい・やすらぎが共生する 岡崎の森 ～



平成23年3月
岡崎市

1. 岡崎市森林整備ビジョン策定の背景

●本市の60%を森林が占めています

本市は2006年1月に額田町と合併し、市域の約60%を森林が占めることとなりました。

くらがり溪谷には天然林が、額田地域には主にスギとヒノキの人工林が分布しています。

また、都市近郊には、かつて薪炭林として利用されてきた里山林が分布しています。

森林には(参考)に示したような様々な働き(「公益的機能」)があり、私たちは、森林の恩恵をたくさん受けて生活しています。

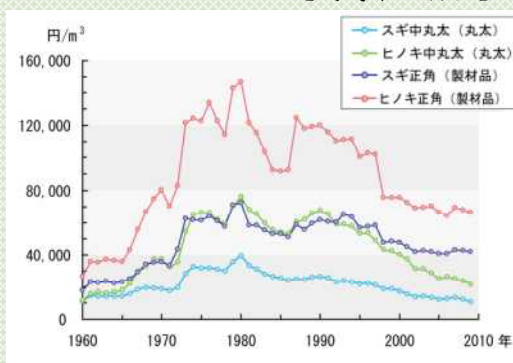


[岡崎市の森林]

●放置森林の増加により、森林の働きの低下が危ぶまれます

森林の多くは、国産材価格の長期低迷や高齢化による林業従事者不足などにより必要な森林の手入れを行うことが困難な状況となっています。

このまま森林が放置され続けると、良質な木材を作り出すことができなくなるばかりか、森林の持つ公益的機能の低下にもつながります。



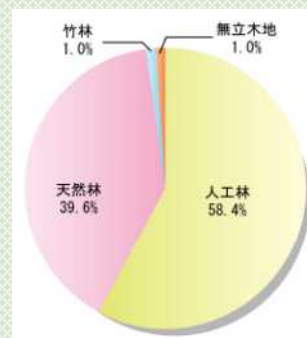
[国産材価格の推移]

●人工林の手入れを行うことが必要です

本市の森林の約60%を占める人工林の多くは、樹木の健全な成長のために本数を調整する「間伐」が十分に行われていない状況です。

良質な木材を作り出し、公益的機能が十分に発揮される森づくりに向けて、適切に間伐を行っていくことが求められます。

本市の森林・林業の現状と課題を明らかにし、市民、企業、行政などが協力して森づくりを進めるために・・・



[本市の森林の種類]

➡ 『岡崎市森林整備ビジョン』を策定します。

(参考) 森林の主なはたらき

■水源かん養 (緑のダム)

雨水を土壤に貯め、ゆっくりと下流へ流していくため、洪水を防ぎ、濁水を緩和しています。



■土砂災害防止・土壌保全

地表面の低木や草、落葉や、木の根などにより、土壌を崩れにくくし、災害を防止しています。



■生物多様性保全

多様な野生動植物の生息・生育の場となっています。



2. ビジョンの考え方

●対象とする森林

ビジョンでは、市内のすべての森林を計画対象とします。

里山林と天然林については、「岡崎市環境基本計画」や「岡崎市水環境創造プラン」などの既存計画の内容を踏まえることとし、人工林については、本ビジョンで新たな管理・整備方針を定めます。

[対象とする森林]



ビジョンで新たな
管理・整備方針を定める

他の関連計画の
管理・整備方針にしたがう

●計画期間

ビジョンは100年後の2110年を長期目標に、30年後の2040年を中期の計画期間に設定し、「第6次岡崎市総合計画」の計画期間である10年後の2020年に見直しを行います。

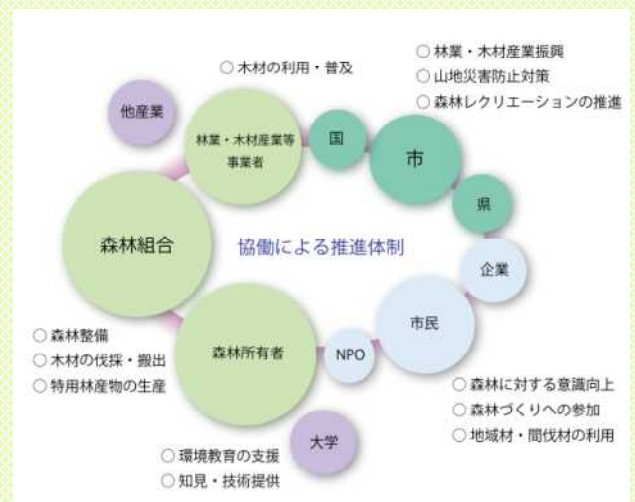
年度	2010年	→	2020年	→→	2040年	→→→	2110年
第6次岡崎市総合計画	[計画期間]						
岡崎市森林整備ビジョン：長期目標（100年）	[長期目標]						
中期目標（30年）	[中期目標]						
短期目標（10年）	[短期目標]						

[ビジョンの計画期間]

●推進体制

100年後の望ましい森林の姿を実現するために、森林所有者や森林組合、行政に加え、市民・企業の主体的な取組や、市民・企業と行政との協働による取組を実施していきます。

わたしたち一人ひとりが、将来に受け継ぐべき財産として森林を大切に守り育てていくために動き出さなければいけない時期にきています。



[ビジョンの推進体制]

■地球環境保全

二酸化炭素 (CO₂) を吸収・固定し、地球温暖化の防止に役立っています。



■物質生産

木材、香料や染料の原料、きのこや山菜などをわたしたちに提供してくれます。



■保健・レクリエーション

わたしたちに癒しや安らぎ、心身のリフレッシュ効果を与えてくれます。



3. ビジョンでめざす、100年後の望ましい森林と私たちの暮らし

森林づくりは「100年の計」であり、50年先、100年先という長い目でそれらの成長の様子をイメージしながら計画的に日々の手入れを実施していく必要があります。適切な手入れにより得られた木材やその他の林産物を循環利用するとともに、水源かん養、土砂災害防止、レクリエーションなどの森林の持つ公益的機能が十分に発揮されるような、持続可能な森林づくりを行うことが重要です。

本市における100年後の望ましい森林の姿を次のように定めます。



めぐみ・うるおい・やすらぎが共生する 岡崎の森

100年後の望ましい森林の姿である「めぐみ・うるおい・やすらぎが共生する岡崎の森」を実現するために、林業の再生や地元材・間伐材の利用促進、市民参画による森林づくり活動の推進などを目的とした6つのプロジェクトを推進していきます。

めぐみ	1. いきいき！林業再生プロジェクト
	2. 使おう！おかざきの本材プロジェクト



うるおい	3. 高めよう！安全と安心プロジェクト
	4. 守ろう！生き物のすみかプロジェクト

やすらぎ	5. 広げよう！森づくりの環(わ)プロジェクト
	6. 育てよう！明日の林業家プロジェクト

4. ビジョンの施策体系

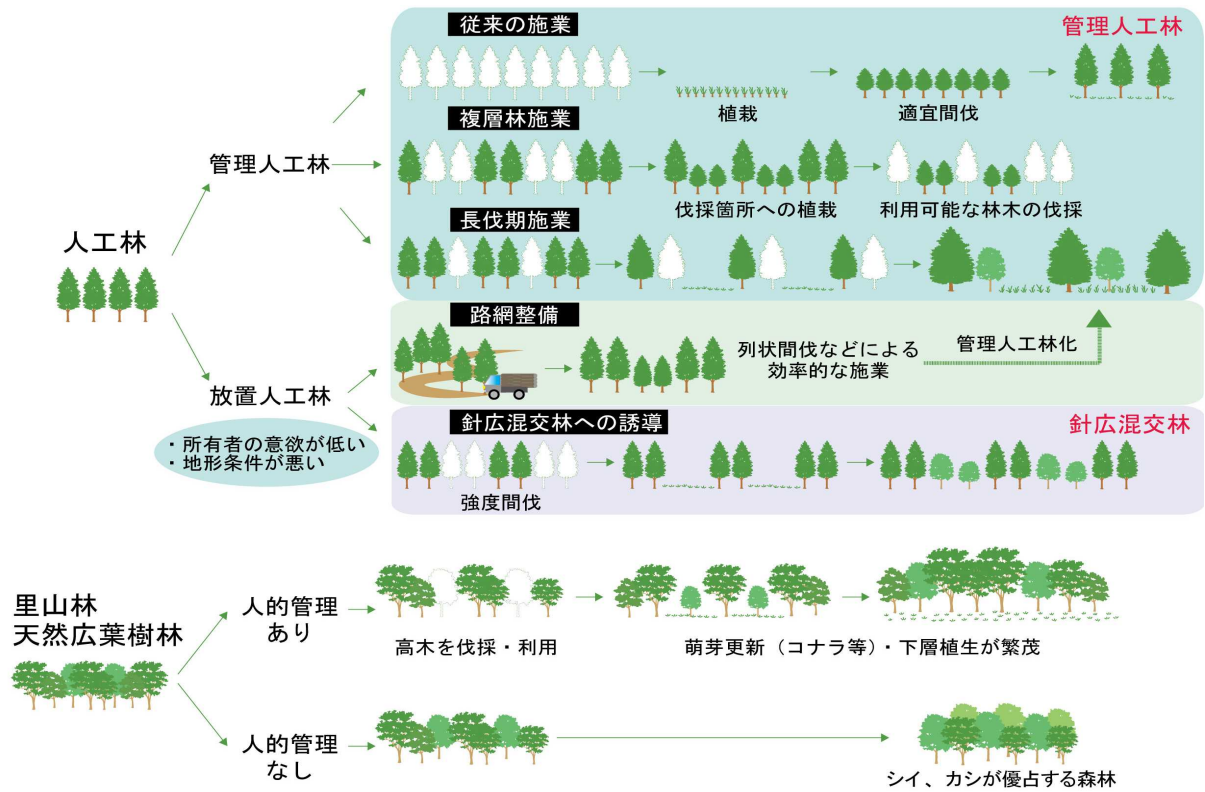
本市の森林・林業の現状を踏まえて設定した100年後の目標を実現するための6つのプロジェクトと、それぞれのプロジェクトを組み立てる個別施策・取組を示します。

本市の森林・林業の現状			市民の声	目標像・基本方針	プロジェクト名	個別施策・取組			
市域の60%が森林・森林の60%が人工林・人工林の50%が間伐が必要	森林施業	所有形態	<ul style="list-style-type: none"> 市内の森林の90%が私有林である 所有森林面積が10ha未満の小規模林家が多い 不在村森林所有者が20%を占める 	高齢化や代替わりによって林地の境界が不明瞭である所が増えている。	100年後の望ましい森林の姿	地域のぬくもりあふれる木材やその他林産物を育てる森林	林業及び木材産業の振興と森林資源の循環利用の促進	いきいき！林業再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 間伐の推進による木材生産機能の向上 不明瞭な林地境界の解消・確定 <ol style="list-style-type: none"> 不在村森林所有者への普及啓発 境界測量作業の迅速化 高性能林業機械の導入促進 <ol style="list-style-type: none"> 森林施業の機械化の推進 高性能林業機械オペレーターの育成 高性能林業機械のレンタル制度の普及 施業の団地化・集約化の推進と森林情報の集積・活用 <ol style="list-style-type: none"> 施業の団地化・集約化の推進 森林情報の把握 林内路網整備の促進
		林内路網	<ul style="list-style-type: none"> 路網密度は22.9m/haで、国の水準(44~50m/ha)の半分程度である 森林施業の効率化のために森林所有者は路網整備を最重視している 	森林の管理がしやすいように林道や作業道の整備を進めてほしい！					
		林業機械	<ul style="list-style-type: none"> 県全体での高性能林業機械の保有台数は44台である 本市の高性能林業機械の保有台数は4台である 	林内作業車や枝打ち機等林業機械の購入補助制度や貸出し制度を設けてほしい。					
	林産物生産・利用	<ul style="list-style-type: none"> 木材卸売価格、素材生産量とも減少傾向にある 市内で生産される特用林産物のほとんどが生しいたけである 	せっかく育てた木を有効活用できるような仕組みを考えてほしい！	使おう！おかざきの木材プロジェクト				<ul style="list-style-type: none"> 素材の安定供給体制の構築 流通・加工体制の低コスト化と利用先の拡大 木材製品の品質向上と利用促進 <ol style="list-style-type: none"> 木材認証制度の普及(あいち認証材等) 地元材を活用した住宅づくりの推進 公共施設・公共事業における地元材の利用促進 多様な製品ニーズへの対応 チップ化やバイオマス利用等による低質材の利用促進 	
木材利用	<ul style="list-style-type: none"> 間伐材利用率は県と同水準である 低価格で高品質な木材が求められる 市に対して「木材利用」のための取組を求める市民が多い 	育林・伐採費用が高くて採算が合わない！ 地元材や間伐材を利用してほしい！							
森林の公益的機能の発揮	治山	<ul style="list-style-type: none"> 森林の「土砂災害防止機能」を重視する市民が多い 市に対して「災害防止」のための取組を求める市民が多い 	洪水や山崩れ等の災害防止をしっかりとやってほしい！	100年後の望ましい森林の姿	災害を抑制し、豊かな水と多様な生き物が息づく森林	健全で美しい森林づくりの推進	高めよう！安全と安心プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 山地災害の防止 間伐の推進による緑のダム機能の向上 森林の適切な管理・保全 <ol style="list-style-type: none"> 林地開発許可制度の適切な運用 国立公園・自然公園の保全・管理 公有林の整備促進 	
	水源かん養	<ul style="list-style-type: none"> 乙川や矢作川の豊かな水資源に恵まれている 森林の「水源かん養機能」を重視する市民が多い 	健全な土・水・空気を守ることが大切だと思う。						
	環境保全	<ul style="list-style-type: none"> 森林の「地球温暖化防止機能」を重視する市民が多い カーボン・オフセットの参加意欲がある企業が見受けられる 	CO ₂ 削減のために外材の利用を減らすべきではないか？						
	生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> 森林の「生物多様性保全機能」を重視する市民が多い イノシシやヒノシカによる食害等が発生している 	里山的な森林があるとよい。 シカが樹木の皮をめくるので困る。				守ろう！生き物のすみかプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 野生動植物の保護 <ol style="list-style-type: none"> 生物の生息・生育環境の保全 希少な野生生物の保護 多様な森林づくりの推進 <ol style="list-style-type: none"> 【単層人工林】木材生産機能を重視する人工林の適切な管理 【針広混交林】公益的機能を重視する人工林の針広混交林への誘導 【里山林】人的利用に供する里山林の適切な管理 【天然広葉樹林】貴重な自然植生を育む天然林の保全 鳥獣被害対策の推進 <ol style="list-style-type: none"> 鳥獣被害の実態把握 鳥獣被害対策の推進 森林病虫害対策の推進 <ol style="list-style-type: none"> 森林病虫害被害の実態把握 森林病虫害対策の推進 	
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> おかざき自然体験の森等で市民団体による森林整備活動が行われている 所有森林を市民団体等へ貸与する意思のある森林所有者が40%である 	幼少期から森林について勉強・体験する時間をつくるのが大切だと思う。							
普及啓発	市民の意識	<ul style="list-style-type: none"> 森林・林業の現状に対する都市住民の認識が不足している 市民や企業の森林整備活動への参加意欲は高い 	森林の大切さをもっとPRしてほしい！ 森林のために何かしたい！	100年後の望ましい森林の姿	市民の憩いの場、学びの場、活動の場となる森林	地域の環(わ)・人の環(わ)の形成	広げよう！森づくりの環(わ)プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 市民への森林環境教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> 小中学校での森林環境教育の推進 「森の駅」等を活用した森林とのふれあいの場づくり 市民・企業等の森林づくりの推進 <ol style="list-style-type: none"> 市民・企業等による森林整備の促進 市民・企業等による放置林整備のしくみづくり 森林づくりに関する情報の整備と発信 	
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 実務者向けの間伐講習会等が定期的に行われている 森林の手入れを実施しない主な理由は作業員不足である 	高齢で体調もすぐれず、なかなか山に行くことができない。どうすればよいのか？						育てよう！明日の林業家プロジェクト

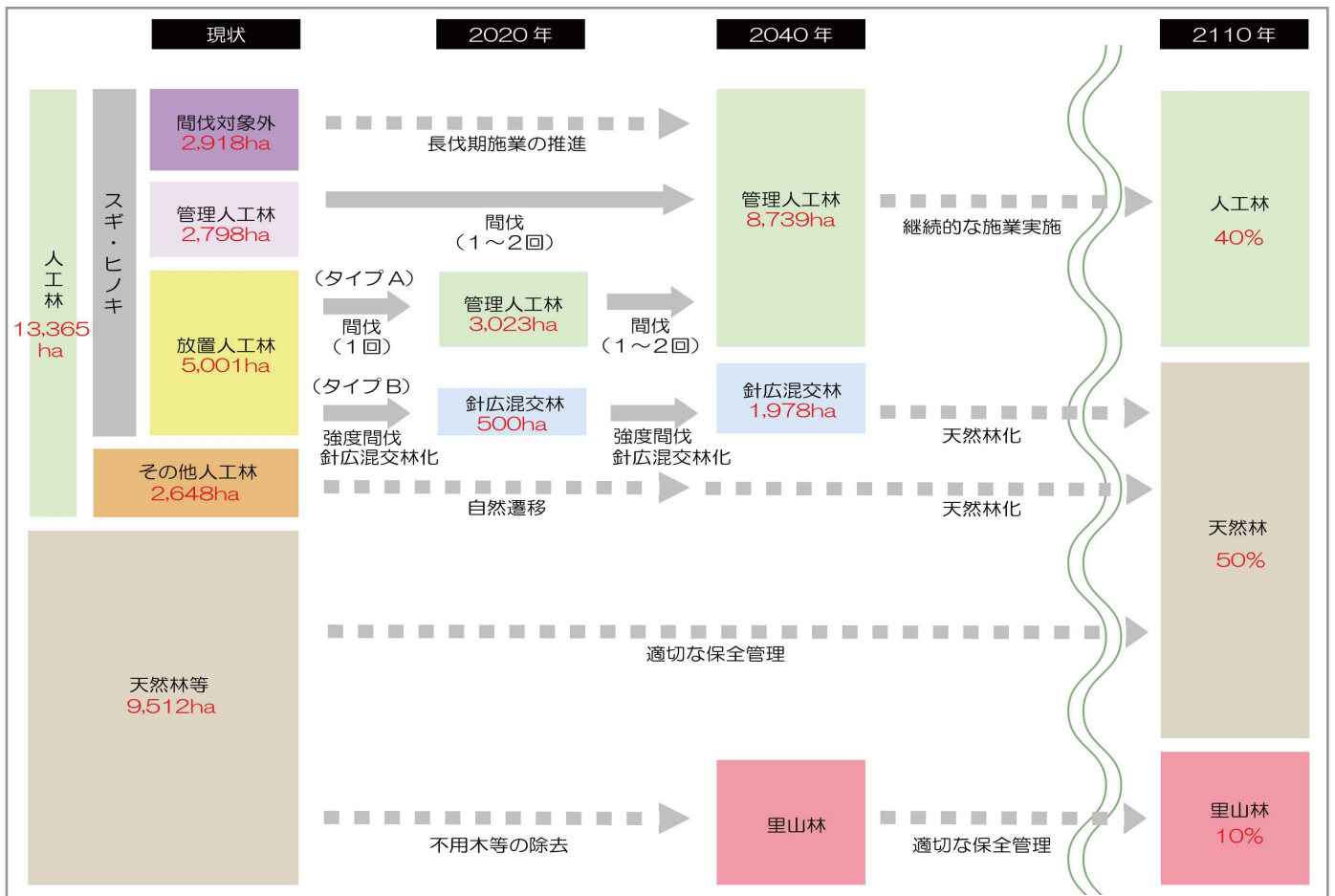
5. 「岡崎の森」の整備方針

100年後の望ましい森林の姿を実現するための、それぞれの森林の整備方法と整備目標を示します。

●人工林、里山林、天然広葉樹林の整備方法



●100年間の森林の整備目標



- 間伐対象外:2009年時点で、本市の造林事業で間伐対象となる4~12 齢級(16~60年生)以外のスギ・ヒノキ人工林。
- 管理人工林:2009年時点で、1996年~2008年の間に1回以上間伐報告されているスギ・ヒノキ人工林。
- 放置人工林:2009年時点で、1996年~2008年の間に間伐報告されていないスギ・ヒノキ人工林。その他人工林:マツ類と広葉樹の人工林。
- タイプA:放置人工林のうち、木材生産機能を重視する森林。
- タイプB:放置人工林のうち、水源かん養や土砂災害防止などの機能を重視する森林。

6. 主な施策・取組の紹介

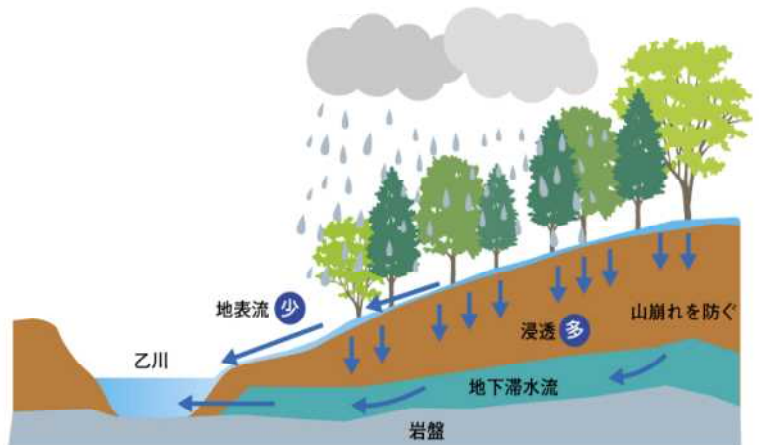
ビジョンの個別施策・取組のうち、主なものを紹介します。

間伐の推進による緑のダム機能の向上

雨として降った水を土壤に貯め、ゆっくりと流すことで洪水を防止し、渇水を緩和する、水源かん養機能のことを「緑のダム機能」とも呼びます。

本市の乙川の流域内には広大な面積のスギとヒノキの人工林があり、それらを適切に整備・管理することにより、水道水の安定供給や、台風や大雨時の洪水防止など、安全で安心な市民生活の実現を図ります。

[緑のダム機能のイメージ]



「森の駅」などを活用した森林とのふれあいの場づくり

森の総合駅やおかざき自然体験の森などの「森の駅」やくらがり溪谷を含む県立自然公園などを活用し、市民に、自然体験や環境学習を通じた森林や自然とのふれあいの場を提供します。

例えば、くらがり溪谷では、キャンプ場などを活用した滞在型農林業体験活動を推進し、閨苅国有林以外の地域では、市民の健康、学習、余暇活動などのレクリエーション活動に寄与する森づくりを進めます。

[くらがり溪谷の整備イメージ]

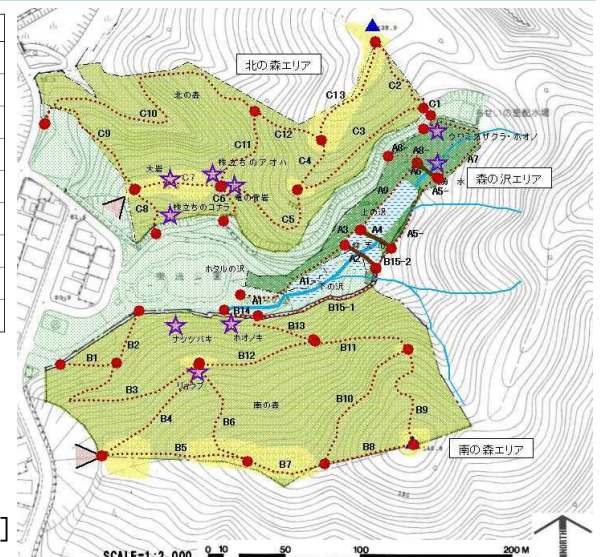


市民・企業等による森づくりの推進

放置された人工林や里山林での市民、NPO、企業などによる森づくりを推進します。

例えば、ちせいの里においては、地域の市民団体との協働による森林整備を推進し、健全な里山の自然環境の維持・管理に努めます。

記号	名称
	公園・緑地等
	沢筋
	作業歩道(階段含む)
	木デッキ園路
	森の広場
	シンボルツリー等
	眺望点
	人工林整備対象林
	里山林整備対象林



[ちせいの里 里山林整備概要図 (案)]

岡崎市森林整備ビジョン(概要版)

岡崎市経済振興部林務課 〒444-3696 愛知県岡崎市榎山町字山ノ神 21 番地 1
TEL (0564) 82-3102(直通) / FAX (0564) 82-3634 (2011.3 発行、1,000 部)

